

# 多品種少量生産時代の 生産管理能力の高め方の具体策

コンサルティング(株) 松井順一\*

## 多品種少量生産の拡大してきた背景

経済が成熟化した先進国を中心に消費者の購買意識が変わり、自分らしさやこだわりの追求、他者との差別化から、求める商品やサービスが人それぞれ異なるモノとなってきた。このような購買行動の変化が、皆が同じものを求める売れ筋を中心としたビジネスから、売れるモノが多岐にわたるビジネスへの転換を進めた。このビジネスは、販売量順に並べたグラフで恐竜の尻尾のように長

\* (まつい じゅんいち)：代表取締役  
〒460-0024 愛知県名古屋市中区正木4-6-6  
第13フクマルビル  
TEL：052-747-5772

く伸びた領域が対象となるビジネスであることからロングテールビジネスと呼ばれる(図1)。

このロングテールビジネスは、物理的に品ぞろえに限界があるリアル店舗で対応できず、インターネットを通じたECが中心となってビジネスを拡大させている。

この流れは止まることはなく、さらにロングテールビジネスは拡大し、多種多様な商品やサービスが増えていくこととなる。ものづくりの現場では、このロングテールビジネスによって多品種少量生産要求が急激に高まってきており、多品種少量生産への対応が死活問題となりつつある。

## 多品種少量生産を進める上での プレス / 板金の生産管理上の課題

ロングテールビジネスの進展による多品種少量生産の課題は5つに整理することができる(図2)。

### (1) 新製品の増加

製品アイテム数の増加によって、増加した新製品の生産準備回数をこなす力と短期間で準備する立ち上げ力が求められる。

### (2) 段取り回数の増加

製品アイテム数の増加による段取り回数の増加への対応と生産停止時間を短縮する段取り改善を

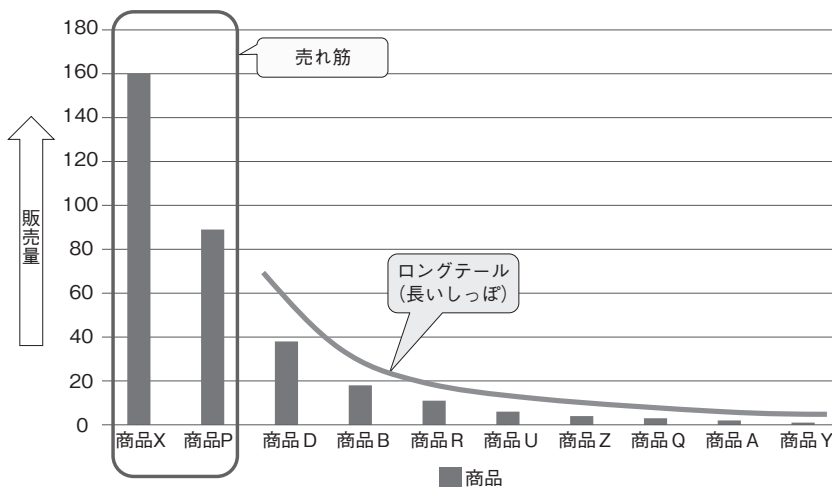


図1 ロングテールビジネスと多品種少量生産